



勇気をもらう行動

副校長 神 美帆

第25回オリンピック冬季競技大会が2月6日よりイタリアのミラノ・コルティナでスタートしました。オリンピック冬季競技大会は、1924年フランス・シャモニー・モンブランで国際冬季競技大会として開催されたのが最初になります。その4年後、1928年スイス・サンモリッツで開催された第2回に、日本選手団が大会初参加。約100年前になりますね。

日本人の冬季大会初メダリストは、スキー・回転で猪谷千春さんの銀メダル。1956年イタリアのコルティナ。

今回の開催地と同じです。今回も日本選手の活躍が楽しみです。

オリンピックで変わらないものは、五輪のマーク。

五輪のマーク(オリンピック・シンボル)は、青・黄・黒・緑・赤の5つの輪が連結した、近代オリンピックの象徴です。意味は5大陸(アジア、欧州、アフリカ、南北アメリカ、オセアニア)の連帯と、スポーツを通じた友情と平和の輪。古代ギリシャ・デルフォイの祭壇にあった紋章に由来するそうです。

変わったのは、種目や採点内容等々。

例えばフィギアスケートは、技術点と演技構成点数を合計した点で競う。技術点はジャンプ、スピン、ステップシークエンス、(ペアやアイスダンスの)リフトなどには基礎点が設定されており、出来栄点が加算され、得点が決まる。演技構成点は、構成力、演技力、スケート技術の3項目を採点する。とても奥が深い採点内容ですね。

スキージャンプの採点方法は、「飛距離点」と「飛型点」の2つの要素。飛距離点は、そのジャンプ台のK点(建築基準点)を基準に、K点を超えた距離、またはK点に届かなかった距離に応じて得点が増減する。「飛型点」は「飛行」「着地」「アウトライン(着地後に滑る部分)」の3つの要素に基づいて行われる。飛行中は、腕・脚・スキー板が過度に動かないことが理想的な飛行姿勢とされる。着地は、膝を曲げ、片足をやや前に出す「テレマーク姿勢」が求められる。また、着地後は安定した状態でフォールライン(着地後の滑走エリアの終わり)を通過しなければならない。

今回のミラノ五輪で銅メダルを獲得した丸山選手。5年前に左膝前十字靭帯(じんたい)を損傷する大けがを負いました。テレビを見ていると、放送のカメラが姿を追いかけて、自分が体験しているような映像が流れます。そのたびにとても恐怖を感じます。滑っていくスピード、高さ。落ちたら大けがする予想。

けがを乗り越え、恐怖心に打ち勝った丸山選手に勇気をもらいました。血のにじむような練習を続けたことは想像できます。スポーツは、常にけがと隣り合わせだと思うのです。しかし、一生懸命取り組むこと、あきらめないことは、他人にエネルギーを与えてくれる。

さて皆さんは、何に一生懸命取り組んでいますか。手を抜かず、一生懸命に取り組んでいますか。

あなたの周りには、応援している人がたくさんいます。あなたからエネルギーをもらっている他人がいます。ぜひ学校生活の中で、あなたの取組を見せてください。あなたの一生懸命取り組む姿が他人に波及し、大きな躍動感になりますように。



命の大切さ

～阪神淡路大震災を経験して～

清瀬市命の週間の取組として、青少年問題協議会第一地区の皆様にご協力いただき、1月14日 関西大学の岡田哲也先生を講師にお迎えし、「命の大切さ」についてご講演いただきました。



1995年1月17日午前5時46分兵庫県を襲った大地震により、西宮市のご自宅の2階で被災されました。1階は押しつぶされ、そこにはご両親と帰省していたお姉様と姪御さんが寝ていたのです。家族を喪ったことを悲しみ、喪失感や、「助けなかった」「自分が重りになって押しつぶした」と罪悪感に苛まれ、「自分は幸せになってはいけない」と苦しみを抱えました。自分の命を…と考えたこともあったそうです。ある日「震災から10年も経つのに、地震が起こると涙が溢れそうになるのはおかしいのか。」と、会社の医務室で看護師に相談すると「ひとりですと頑張ってきたんやね。」この言葉に救われたそうです。「10年も苦しんできたのは、家族が大切な存在だったから。もし自分と家族が逆の立場になっていたなら、気にせず、幸せに生きていって欲しいと願うだろう。ならば、幸せにならないといけないかも…。」と思えるようになり、悲しみに向き合い、考えを整理していったのです。「人が亡くなると、悲しみや苦しみを抱える人がいます。それは周りの人の人生が変わること。だから自分の命をそして人生を大切にしてほしい。あなたのことを大切に思っている人がいるのです。あなたは大切な存在です。」と貴重なお話をお聴きすることができました。



エコキャップ運動

生徒会企画“エコキャップ運動”でPETボトルキャップ回収を行いました。生徒集会において、生徒の皆



さんの協力に感謝を込めて回収結果を発表しました。今年度は20.7kgが集まりました。50kgごとに業者

が引き取ってくれ、ポリオウィルスワクチン約12人分と交換されます。昨年と合わせて48.2kg。あと少しで、そのワクチンを必要とする他国の子供たちへ贈ることができ

清瀬市児童生徒国内派遣

清瀬市の事業“児童生徒国内派遣”が実施されました。「自ら学びたい分野・関係する訪問先をプレゼンする」審査を経て派遣生徒が決定します。この企画に応募の8グループの中から清瀬中の1年生2名が選



出されました。二人は、長崎へと訪問し、長崎の歴史、(外国との貿易、戦争と原爆等)を主体的に学びました。訪問学習後、二人が作成した資料が市役所2階生涯スポーツ課窓口に掲示されております。

ダンスによる“表現する力”

2月2日、“笑顔と学びの体験活動プロジェクト”において、ダンスの世界大会の優勝経験のあるwoodpeckerさんを招きダンスパフォーマンスのワークショップを行いました。ダンスの披露あり、レッスンあり、50分があつという間。短時間にも関わらず、生徒たちは自分を表現し、キレイのあるダンスを披露しました!!

